

ソーシャルな声優イベント参加履歴に基づく声優ファン行動の定量化分析

@MagnesiumRibbon

<http://voice-statistics.hatenablog.jp/>

Abstract

声優の人気や世間の評価について考える際、売上や言及数などの単純な統計だけが用いられ、どういうファンにどういう声優が人気なのか、という相互関係を理解することは難しかった。一方、今日のなんでも Web サービスな風潮により、一部の声優ファンの行動も Web 上で得ることが可能になってきた。そこで本研究では声優ファンの声優イベントへの参加行動から声優ファンの行動傾向を把握し、同時に各声優はどのような声優ファンから支持を得ているのか明らかにすることを試みた。Eventernote から得られた 2013 年のイベント参加履歴から四季クールにおける声優毎の出席率などの統計を組み合わせ、ファン行動と声優人気間の関係を数値化することに成功した。

Keywords: 声優統計, 声優イベント, イベントアー, Eventernote

1. 背景

声優と声優統計をめぐる状況は今年も急激に変化しており、声優統計に求められる役割も変化してきている。ここでは背景として、今回声優イベントについて研究するに至る状況・環境の変化を挙げる。

1.1. 声優ファンをとりまく環境の変化

昨今のアイドルブーム再復興や連動するように発生したアイドルアニメブームなどにより、元より近接領域であった（若手）声優ファン文化とアイドルファン文化との交雑は加速度的に進行している。アイドルファンやオタ芸がネタ的ではあるにしろ世間一般に認知されたことも相俟って、声優イベントにおける応援行為の過激化やその是非についての論争は日々高まっている。また、俗に「イベントアー」と呼ばれ揶揄される、声優そのものよりもイベント参加を目的とするファン層についても問題視されている。

1.2. 筆者をとりまく環境の変化

声優統計をやりたい！と思った当初は筆者にとって、声優ブログなどはリアルな現代書き言葉の宝庫であり、研究的にも大いに興味ひかれる題材であった。だが大学での研究を諦めた筆者は、身銭を稼ぐべく非正規雇用で不自然言語処理をしている。テキストマイニングの結果「声優」と「歌手」が近い概念

であると発見したりする毎日で筆者は疲労困憊し、声優統計で自然言語処理なんか絶対やりたくない！と考えるに至った。

また、下半期に興味のあるイベントに（自分としては）かなりたくさん行った結果、声優イベントやイベントアーについて何か調べたみたいと思うようになった。

1.3. 声優統計をとりまく環境の変化

声優統計は本来(?) 声優島の片隅で統計を趣味でいじりながら声優について何か言う営みである。だが当初の意図とは裏腹に、だが同時にありがたいことに声優統計の反響は大きく、新な執筆者を毎度迎えることが出来、また声オタ界と統計界の両方にその裾野を広げることが出来た。しかし、知名度が上がることで従来の文脈を共有しない方にも声優統計が知られるようになり、あまつさえ声優本人にまでその名が知られるようになった。[3]

それ自体はありがたいことなのだが、声優統計のメンバは声優に対しフラットに接しすぎるあまり人によっては不快に思われるような内容になってしまっていることがある。もちろん研究したいぐらいなので皆声優を尊敬し、愛していることは言うまでもない。ただ研究対象として声優を客体化しようという試みこそが声優統計である、というのもまた事実である。そこで客体としてどんなに下衆なことを書いても問題ない、そういう領域の確保が求められている。¹

Email address: magnesium.ribbon@gmail.com
(@MagnesiumRibbon)

¹要出典。